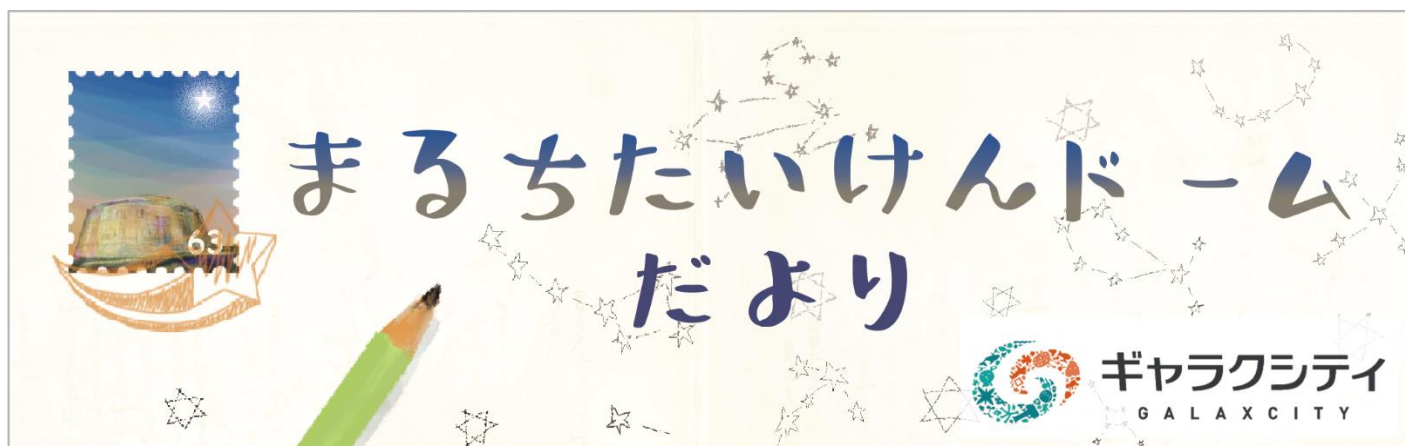


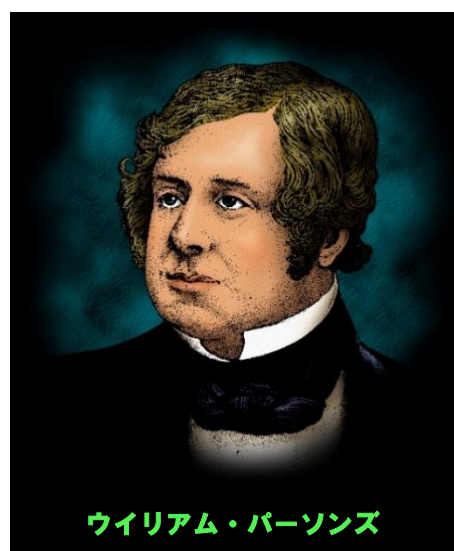


かに星雲シリーズ:その3 ^{きょう}メシエとロス^{せいうん}卿がみた「かに星雲」

フランスの天文学者であるシャルル・メシエ(1730～1817年)は、多くの彗星を発見したことで有名です。メシエが彗星を探しているときに、星雲や銀河など彗星と間違えやすい天体があることに気づき、それをリストにまとめていました。のちにこのリストを発表し、「メシエカタログ」として今現在も知られています。

メシエカタログに載っている天体は、メシエの頭文字をとって、M1、M2、M3…という表記になっていますが、この記念すべき1番目の天体 M1が「かに星雲」なのです。

そんなメシエが活躍した少し後の時代、この「かに星雲」という特徴的な名前^{なづ}の名付け親が現れました。アイルランドの天文学者・ウィリアム・パーソンズ(1800～1867年)です。



「ロス卿^{きょう}」という名前で知られているこのパーソンズは、ある日 M1を望遠鏡で観測し、それをスケッチしました。M1のフィラメント構造^{こうぞう}が、かにの甲羅^{こうら}に見えたことから「かに星雲」と呼ばれるようになったと言われています。

かに星雲を作り出した超新星が現れたのは1054年のことですが、それから700年以上の時^たが経ち望遠鏡の発明によって、この天体は「かに星雲」として再び脚光^{きゃっこう}を浴びることになったのです。

(解説員:伊藤 貴大^{かいせつ いん たかひろ})

